

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦舞
----	------	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	6企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃぼっくすよろづや 株式会社BOX4628		団体ウェブサイトURL	
			<a href="http://box4628.jp/">http://box4628.jp/</a>	
代表者職・氏名	代表取締役・滝沢直也			
制作団体所在地	〒	171-0014	最寄り駅(バス停)	東京メトロ 要町
	東京都豊島区池袋3-1-12-702			
電話番号	03-6907-0569			
ふりがな 公演団体名	おきなわでんとうくみおどりしーのかい		団体ウェブサイトURL	
	沖縄伝統組踊「子の会」		<a href="https://www.nt-okinawa.or.jp/kumiodori-">https://www.nt-okinawa.or.jp/kumiodori-</a>	
代表者職・氏名	会長・仲嶺良盛			
公演団体所在地	〒	903-0804	最寄り駅(バス停)	石嶺入口
	沖縄県那覇市首里石嶺町3丁目158-13			
制作団体 設立年月	2015年 4月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役:滝沢直也 取締役:榎本かおり、岡本雅人 顧問・相談役:織田紘二 相談役:川満香多・大城建太郎(実演家)		役員3名 監査役1名 事務局員5名 ※当団体の活動に賛同し伝統芸能に携わる実演家および関係者、舞台スタッフ	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	榎本かおり	
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	税理士 大塚康正	
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	box4628_nk@yahoo.co.jp			

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>2013年 制作会社BOX4628として発足、現住所に所在地を置く  2015年 法人格を取得、株式会社BOX4628  2015年 日本財団主催による「こっぼん文楽」六本木公演のアシスタントプロデューサーを務める  2017年 「平成29年度文化芸術による子供の育成事業」巡回公演事業採択  沖縄伝統組踊「子の会」  2018年 「平成30年度文化芸術による子供の育成事業」巡回公演事業採択  沖縄伝統組踊「子の会」  2019年 「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業」巡回公演事業採択  沖縄伝統組踊「子の会」  2020年 「令和2年度文化芸術による子供育成総合事業」巡回公演事業採択  沖縄伝統組踊「子の会」  2021年 「令和3年度文化芸術による子供育成総合事業」巡回公演事業採択(2団体)  沖縄伝統組踊「子の会」、一般社団法人善竹狂言事務所  2022年 「令和4年度文化芸術による子供育成推進事業」巡回公演事業採択  沖縄伝統組踊「子の会」  2023年 「令和5年度文化芸術による子供育成推進事業」巡回公演事業採択  沖縄伝統組踊「子の会」、沖芸大琉球芸能専攻OB会  2024年 「令和4年度文化芸術による子供育成推進事業」巡回公演事業採択  沖縄伝統組踊「子の会」、沖芸大琉球芸能専攻OB会、一般社団法人善竹狂言会</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>2013年 組踊鑑賞会「執心鐘入」3校、「パーフェクトパントマイム」1校、「狂言教室」6校、  「落語教室」6校  2014年 組踊鑑賞会「執心鐘入」17校、「パーフェクトパントマイム」1校、「狂言教室」4校  「落語教室」10校  2015年 組踊鑑賞会「執心鐘入」20校、「パーフェクトパントマイム」1校、「狂言教室」5校  「落語教室」10校  2016年 組踊鑑賞会「執心鐘入」20校、「パーフェクトパントマイム」1校、「狂言教室」3校  2017年 組踊鑑賞会「執心鐘入」10校、「パーフェクトパントマイム」1校、「狂言教室」35校  2018年 組踊鑑賞会「執心鐘入」15校、「狂言教室」27校  2019年 組踊鑑賞会「執心鐘入」10校、「狂言教室」16校  2020年 組踊鑑賞会「執心鐘入」8校、「狂言教室」10校</p>			
<p>特別支援学校等 における公演実績</p>	<p>2016年 「組踊鑑賞会」 1校</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/qSdqmC9Cl3Q">https://youtu.be/qSdqmC9Cl3Q</a></p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよび パスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

別添	あり
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 沖縄伝統組踊「子の会」】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○

企画名	おきなわ伝統芸能「琉球舞踊」と「組踊」			
-----	---------------------	--	--	--

企画のねらい	<p>ワークショップ、本公演を鑑賞される児童・生徒、教職員、学校関係者、皆さんの大多数の方は、おそらく沖縄独自の伝統芸能である琉球舞踊と組踊を初めて鑑賞されることでしょう。</p> <p>国指定重要無形文化財に指定されている、琉球舞踊と組踊を鑑賞することは、沖縄の歴史、文芸、音楽、舞踊など、地域的、文学的、演劇的、音楽的特色が明確であることを初めて知る貴重な機会となります。</p> <p>こうした知識を身につけることで、将来を担う児童・生徒が自国の伝統芸能や舞台芸術への興味関心が促されると思うのです。</p> <p>また、琉球舞踊と組踊の体験・共演に参加し触れる、直接的・具体的な体験から、子どもたちの豊かな感性と創造性、意欲を育むとともに、コミュニケーション能力の向上につながると考えます。</p> <p>加えて、ワークシートを活用していただくことで、児童・生徒が本企画から得た知識や体験を、鑑賞できなかった児童・生徒へ共有することで教育学習の向上につながると考えます。</p> <p>そして本企画を通して、総合的な学習の時間に活用していただきたいと思います。変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う時間に利用していただき、児童・生徒が自ら将来、課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつなげてほしいのです。</p> <p>琉球舞踊と組踊の鑑賞と体験の活動は、次のように小学校教科、中学校教科に充てることができます。「方言」や「琉球古語」を国語に、「琉球国時代からの沖縄の歴史」を社会に、「楽器三線」や「琉球古典音楽」を音楽に、「装束」や「衣装」を家庭に、「舞踊」や「型」を体育に、「沖縄の人々の県民性」「多様なものを受け入れる寛容さ」「相互扶助の精神」を道徳に、このような課題を設定することができます。</p> <p>これらの課題を元に、情報収集～整理・分析～まとめ・表現と、プロセスを進めていただき、今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開ができると考えます。</p>			
--------	---	--	--	--

演目概要・演目選択理由	<p>初めて琉球舞踊と組踊を鑑賞するのに相応しい演目としました。</p> <p>琉球舞踊の舞と所作の美しさと、組踊の様式美の素晴らしさが、多分に含まれる演目と考え選択致しました。</p> <p>琉球舞踊と組踊を通して琉球国時代の歴史を学ぶことができます。</p> <p>琉球舞踊「四つ竹」</p> <p>【演目概要】</p> <p>竹で作られたカスタンネットのような鳴り物、四つ竹を両手に持ち「踊りこはでさ節」の演奏にのせてカチカチと四つ竹を打ち鳴らしながら踊ります。衣装は艶やかな紅型衣装、頭に花笠を被ります。</p> <p>【選択理由】</p> <p>古典女踊りの名作で代表的な演目です。手の所作、戴み手、抱き手などの手の振りで無上の喜びを表現します。</p> <p>琉球国時代の宮廷の優雅さ、様式美の見どころが多い芸術性の高い演目を選択しました。</p> <p>組踊「万歳敵討」</p> <p>【演目概要】</p> <p>名馬を手に入れられなかった高平良御鎖が、大謝名の比屋を恨み闇討ちにしました。大謝名の比屋の息子である謝名の子と慶雲兄弟は父の敵を討つ機会を狙っていました。2人は旅芸人に姿を変えて、浜下りの場に近づき高平良御鎖を追い詰め、父の敵を討ち果たしました。</p> <p>【選択理由】</p> <p>あらずじが分かりやすく理解し易い演目でありながら、道行による移り変わる場面を想像することで、緊張感が終盤まで維持され、舞踊と音楽の魅力がふんだんに詰まった演目です。また、組踊の鑑賞の基本にある上手、下手の2画面で物語が進んでいきます。組踊は聞くものと言われるほど、地謡の演奏は重要な役割を担っています。「万歳敵討」から抜粋、構成された琉球舞踊「高平良万歳」があるように、音楽と舞踊の見どころが多く、最後まで集中して鑑賞ができる演目であることから選択しました。</p>			
-------------	--	--	--	--

児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>○3, 塗り絵(紅型)の紹介 ワークショップの際に、お渡した塗り絵を頂戴して、会場の舞台装飾と致します。</p> <p>○3, おきなわことばクイズ 沖縄県の方言を二択のクイズ形式で行います。児童・生徒はその場で全員参加できます。</p> <p>○4, 組踊「万歳敵討」代表児童・生徒による共演と、全員で兄弟の唱えの体験 児童・生徒が、黒い打掛けに帯を締めて、右手にチーグーンを持ち、白足袋を履きます。 兄弟それぞれの役柄で、歩み、唱え、舞踊を行い、高平良御鎖と地謡の皆さんと共演となります。 また、共演で使われる場面の兄弟の唱えを全員で言ってみましょう。</p>			
-----------------	---	--	--	--

児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	400名程度
		鑑賞人数目安	400名程度

<p><b>本公演演目</b></p> <p><b>原作/作曲</b></p> <p><b>脚本</b></p> <p><b>演出/振付</b></p>	<p>1, 琉球舞踊「四つ竹」(踊りこはでさ節) 種類: 古典女踊り 振付・監修: 志田房子 国指定重要無形文化財「琉球舞踊立方」(各個認定) 人間国宝、琉球舞踊重踊流宗家</p> <p>2, ごあいさつ、沖縄県の紹介、琉球舞踊「四つ竹」の作品紹介</p> <p>○3, 紅型塗り絵の紹介、おきなわことばクイズ、地謡の楽器紹介/沖縄音楽ミニコンサート</p> <p>○4, 組踊「万歳敵討」代表児童・生徒による共演と、全員で兄弟の唱えの体験 ※児童・生徒の支度中に、国立劇場おきなわの組踊研修と子の会の様子を映像で紹介をします</p> <p>5, 組踊の鑑賞方法と楽しみ方の紹介、組踊「万歳敵討」の作品紹介とあらすじのお話</p> <p>6, 組踊「万歳敵討」 種類: 仇討物 / 作者: 田里朝直 / 初演: 1756年尚穆王冊封の宴で上演 監修: 宮城能鳳 国指定重要無形文化財「組踊立方」(各個認定) 人間国宝</p> <p>7, カーテンコール、感想発表や質問コーナー ※○は、児童・生徒の共演、参加又は体験となります</p> <p>※別添-1: 本公演演目参照</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>					
<p><b>出演者</b></p>	<p>① 沖縄伝統組踊「子の会」会員 仲嶺良盛、上原信次、佐喜真一輝、上原崇弘、又吉恭平、仲尾勝成、古波藏正信、國吉啓介、宮里和希、宮里光也、伊藝武士、比嘉大志、知花令磨、山城峻称、佐久田朝太、徳田泰樹、棚原健太、大城建太郎、高井賢太郎、下地心一郎、岡本凌、比嘉克之、玉城慶、金城亮太、澤岬安樹、兼箇段翔、新垣勝裕、町田倫士、堀川裕貴、國場海里、森山康人、森山和人、伊波心、比嘉誠伍、久保田諒、加屋本真士、波平宇宙、</p> <p>② 子の会OB・賛助 新垣悟、川満香多、玉城和樹、池間北斗、入嵩西諭、喜納吏一、大城貴幸、岸本隼人</p> <p>③ 琉球舞踊「重踊流」 志田真木、前田恵、平木澄恵、姫野多美、知念捷</p> <p>①②より17名、③より3名</p>					
<p><b>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴</b> ※3名程度 ※3行程度/名</p>	<p>仲嶺良盛 沖縄県立芸術大学大学院舞台芸術専攻琉球古典音楽専修修了、琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範 国立劇場おきなわ第四期組踊研修生、沖縄伝統組踊「子の会」会長</p> <p>志田真木 沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科修士課程修了、琉球舞踊重踊流二世宗家 第73回芸術選奨文部科学大臣を受賞</p> <p>宮城能鳳 組踊実演家、琉球舞踊宮城本流鳳乃會家元、2006年国の重要無形文化財組踊立方保持者(人間国宝)に認定、2019年日本芸術院賞を受賞</p>					
<p><b>本公演</b> <b>従事予定者数</b> (1公演あたり) <b>※ドライバー等</b> <b>訪問する業者人数含む</b></p>	<p>出演者: 20 名</p> <p>スタッフ: 7 名</p> <hr/> <p>合計: 27 名</p>	<p><b>運搬</b></p>	<p>積載量: 2 t</p> <p>車長: 4.7 m</p> <p>台数: 1 台</p>			
<p><b>本公演</b> <b>会場設営の所要時間</b> (タイムスケジュール) <b>の目安</b></p>	<p><b>前日仕込み</b> 無</p>		<p><b>前日仕込み所要時間</b></p>		<p>時間程度</p>	
	<p><b>到着</b></p>	<p><b>仕込み</b></p>	<p><b>上演</b></p>	<p><b>内休憩</b></p>	<p><b>撤去</b></p>	<p><b>退出</b></p>
	<p>9時30分前後</p>	<p>9時30分～11時30分</p>	<p>13時30分～15時</p>	<p>10分</p>	<p>15時～16時</p>	<p>16時</p>
<p>※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。</p>						
<p><b>本公演</b> <b>実施可能日数目安</b></p> <p>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>		
	<p>10日</p>	<p>15日</p>	<p>15日</p>	<p>15日</p>		
	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>		
	<p>10日</p>	<p>10日</p>	<p>15日</p>	<p>15日</p>		
	<p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>			<p>計</p>	<p>105日</p>	

<p>公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真)</p> <p>※採択決定後、図</p>	<p>体育館のステージを舞台として使用した状態</p>  <p>スクリーン</p> <p>背景パネル</p> <p>演奏場所</p>				
	<p>(上の写真)</p> <p>ステージ上の正面に、背景パネルを立てます。 フロアの右側に演奏場所をつくります。 フロアの左側にスクリーンを立てます。 ステージ上の使用スペース 横5.4m 奥行2.7m</p>				
<p>著作権、上演権利等の 許諾状況</p>	<p>各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否</p>	<p>該当なし</p>		<p>該当コンテンツ名</p>	
	<p>該当事項がある場合</p>	<p>権利者名</p>		<p>許諾確認状況</p>	

別添	あり
----	----

## 【公演団体名 沖縄伝統組踊「子の会」】

ワークショップのねらい	<p>本公演の内容をより理解しやすくすることを目的とし、また指導者は、児童・生徒とコミュニケーションを図りながら交流を深め、鑑賞と体験を通して琉球舞踊と組踊に触れて親しんでもらいたいのです。</p> <p>琉球舞踊は、琉球国が中国からの使者(冊封使)を歓待する舞台で踊られたことを機に発展し、18世紀に大成しました。古典舞踊は老人夫婦の「老人踊」・少年仕度の「若衆踊」・青年のりしさを表現する「二才踊」、艶やかな紅型衣装を羽織って踊る「女踊」の4種類に分けられます。廃藩置県後に、庶民の音楽や風俗を取り入れて創作されたのが「雑踊」があります。</p> <p>組踊は、唱え、音楽、踊りによって構成される歌舞劇です。組踊は琉球舞踊同様、中国からの使者(冊封使)を歓待するために、18世紀初頭の踊奉行であった玉城朝薫が創作しました。組踊の初演は1719年です。</p> <p>琉球舞踊、組踊どちらも音楽を担当するのは、地謡と言われる演奏家です。演奏の中心は、15世紀頃、中国から伝わったとされる三線です。三線を弾きながら歌うことから歌三線と言われます。</p> <p>こうした琉球舞踊と組踊の成立や特色、三線の伝来や役割を知ることで、沖縄独自の伝統芸能があることを初めて知る機会となるでしょう。</p> <p>琉球舞踊と組踊の体験では、指導者が児童・生徒の間に入り間近で実技指導を行います。伝統芸能特有の芸の継承方法である「真似る」ことを通して、児童・生徒は琉球舞踊と組踊体験に主体性を持って取り組むことが出来ます。また、本公演演目「四つ竹」と「万歳敵討」の抜粋した内容を鑑賞し体験することで、本公演への興味関心を促すと共に児童・生徒の感性を豊かにし、舞台芸術を鑑賞する力を育む場となるでしょう。</p> <p>また児童・生徒は、目の前で指導者の本公演演目「四つ竹」と「万歳敵討」の抜粋した内容を鑑賞することで、指導者の修練によって培われた繊細な所作や舞踊、唱えによる表現力、繊細な三線の音色など技術の高さを感じるでしょう。</p> <p>さらには琉球舞踊と組踊の楽しさや魅力に触れることから本公演への興味関心を促すと共に児童・生徒の感性を豊かにし、舞台芸術を鑑賞する力を育む場となるでしょう。</p> <p>ワークショップの最後に、琉球舞踊と組踊についてのポイントを質問形式で振り返ります。また挙手で感想や質問を聞かせてもらいます。こうした振り返りを行うことで、児童・生徒が自らの考えや学びを導き出し、探求学習につなげたいと考えます。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100名程度

<p style="text-align: center;"><b>ワークショップ 実施形態及び内容</b></p>	<p>◆ワークショップをスタートする前の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四つ竹、獅子頭、馬頭、チーグシと白足袋机に並べます</li> <li>・ホワイトボード(黒板)に参考資料を貼っておきます</li> <li>・指導者が、着物に着替えて、児童・生徒をお迎えします</li> </ul> <p>●1単位目(1コマ) 時間40～50分(①～⑤)</p> <p>① ご挨拶(礼儀作法)と本事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者が、名前と組踊についての役割を紹介します</li> <li>・本事業の紹介と、ワークショップで学んでいただくことを、プログラム順にご案内します</li> <li>・全員で正座をし、姿勢を正してご挨拶をします</li> </ul> <p>② 琉球舞踊と組踊についてと、楽器三線の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球舞踊と組踊の歴史と成立について紹介します</li> <li>・三線演奏「かぎやで風節」を鑑賞していただきます</li> <li>・三線の伝来や歴史、琉球芸能における役割について紹介します</li> </ul> <p>③ 本公演演目、琉球舞踊「四つ竹」の鑑賞と体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球舞踊「四つ竹」を鑑賞していただきます</li> <li>・「四つ竹」の歌詞、あらすじを紹介します</li> <li>・四つ竹の鳴らし方、歩みと構え(女立)を紹介します</li> <li>・三線の演奏に合わせて全員で「四つ竹」の踊りを体験します</li> </ul> <p>④ 本公演演目、組踊「万歳敵討」の鑑賞と体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組踊「万歳敵討」の抜粋を鑑賞していただきます</li> <li>・「万歳敵討」のあらすじを紹介します</li> <li>・組踊の3要素「唱え」「音楽」「踊り」を紹介します</li> <li>・三線の演奏に合わせて全員で「万歳敵討」役柄による構え、歩み、唱えを体験します</li> </ul> <p>⑤ 1単位目のワークショップを振り返って、感想や質問を聞かせて下さい</p> <p>●2単位目(1コマ) 時間40～50分(⑥～⑦)</p> <p>⑥ 児童・生徒の共演と参加の練習時間となります</p> <p>Aチーム 本公演演目 組踊「万歳敵討」の練習です</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒は足袋を履いてもらいます</li> <li>・「万歳敵討」共演用、抜粋版を鑑賞していただきます</li> <li>・兄弟の役柄に分かれて唱え、歩み、舞踊を繰り返し練習します</li> <li>・通してリハーサルをします</li> </ul> <p>Bチーム 「紅型デザイン」の塗り絵の時間です</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紅型幕と紅型デザインについて紹介します</li> <li>・塗り絵の説明(本公演時で舞台装飾となります)</li> <li>・塗り絵を始めてください</li> </ul> <p>⑦ 2単位目のワークショップを振り返って、感想や質問を聞かせてください</p> <p>※別添-2:ワークショップ内容参照</p>
<p style="text-align: center;"><b>その他ワークショップに 関する特記事項等</b></p>	<p>ワークショップで、学んだことや体験したことを他の学年や児童・生徒に伝えられるようワークシートをご用意致します。</p> <p>琉球舞踊について、国立劇場おきなわのホームページから、以下のサイトをご紹介します。  <a href="https://www.nt-okinawa.or.jp/traditional-okinawan-performing-arts/ja/ryukyudance.html">https://www.nt-okinawa.or.jp/traditional-okinawan-performing-arts/ja/ryukyudance.html</a>  <a href="https://www.nt-okinawa.or.jp/okinawan-traditional-performing-arts/ryukyuan-dance">https://www.nt-okinawa.or.jp/okinawan-traditional-performing-arts/ryukyuan-dance</a></p> <p>組踊について、国立劇場おきなわのホームページから、以下のサイトをご紹介します。  <a href="https://www.nt-okinawa.or.jp/traditional-okinawan-performing-arts/ja/kumiodori.html">https://www.nt-okinawa.or.jp/traditional-okinawan-performing-arts/ja/kumiodori.html</a>  <a href="https://www.nt-okinawa.or.jp/okinawan-traditional-performing-arts/kumiodori">https://www.nt-okinawa.or.jp/okinawan-traditional-performing-arts/kumiodori</a></p>

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 沖縄伝統組踊「子の会」】
<p><b>本事業に対する取り組み姿勢、および効果的かつ円滑に実施するための工夫</b></p>	<p><b>①本事業に対する取り組み姿勢</b>  現在の初等中等教育に関する課題  ○グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっており、学校教育において、求められる人材育成像の変化への対応が必要である。  ○これに伴い、21世紀を生き抜くための力を育成するため、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成等を重視する必要がある。これらは、様々な言語活動や協働的な学習活動等を通じて効果的に育まれることに留意する必要がある。  ○今後は、このような新たな学びを支える教員の養成と、学び続ける教員像の確立が求められている。  ○一方、いじめ・不登校等への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用など、諸課題への対応も必要となっている。  こうした時代に、私共は本事業に於いて、使命感、責任感を持ち、教育現場における感度を共有し、広い視野を持って取り組むことが大変重要だと考えます。  実施対象の児童・生徒、教職員及び保護者は、沖縄独自の伝統芸能である琉球舞踊と組踊を、初めて観て、聞いて、体験する機会となります。それはとても重要なことだと思うのです。なぜなら教育に関する課題として、規範意識の低下による主体性の欠如、読書量の減少による読解力の低下、優れた芸術文化に触れる機会の充実などがあります。  そこでワークショップでは、制作団体と公演団体が、児童・生徒、教職員と細やかにコミュニケーションを図りながら目標目的を明確にし、琉球舞踊と組踊の実演鑑賞と紹介、実技指導と体験を行うことで、本公演につなげる事前学習になると共に課題解決の糸口になるのではないかと考えます。  本公演では、実演家の日々努力研鑽した成果を表現すると共に、芸能への姿勢をあらためて正し、芸格が向上するよう取り組むべきであります。そうしたことが、日本の伝統芸能である琉球舞踊と組踊の普及振興の一助となるでしょう。また日本人のアイデンティティの形成に寄与することでしょう。  公演団体は必ず事前リハーサルの時間を設け、そこに私共、制作団体が立ち会い、事業に取り組む姿勢を共有し再確認致します。  私共、制作団体は、学校周辺の様々な環境や各学校の教育現場における状況を共有し、教職員の方々と一緒に考え事業を進めてまいります。  沖縄伝統組踊「子の会」、琉球舞踊「重踊流」と、株式会社BOX4628は、本事業に謙虚で真摯な姿勢で取り組ませていただきます。</p> <p>※琉球舞踊 振付・監修:志田房子  国指定重要無形文化財「琉球舞踊立方」(各個認定)人間国宝  ※組踊 監修:宮城能鳳  国指定重要無形文化財「組踊立方」(各個認定)人間国宝</p> <p><b>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</b>  「スケジュール調整と公演内容の周知」  開催校が決まりましたら、本事業の円滑に進めていく為に、ワークショップ開催日のスケジュール調整表と本公演開催時間の調整表をお送りします。また、ワークショップ、本公演で行われる内容の資料をお送りして教員内、学校内での周知に利用していただきます。</p> <p>「速やかな連絡体制」  ワークショップ・本公演までの、学校と私共との連絡方法として固定電話、携帯電話、メールなどでご対応いたします。</p> <p>「ワークショップから本公演前の事前学習」  事前学習として、琉球舞踊と組踊に関する情報の掲載されている、独立行政法人日本芸術文化振興会のホームページをご紹介します。またワークショップ、本公演を授業カリキュラム上、鑑賞することが出来ない児童・生徒さんの為に撮影をお願いします。また公演内容に関連したワークシートもお渡しします。</p> <p>「学校側の要望と児童・生徒への留意事項と地域環境の確認」  本事業を、何の授業時間として行い、どのような目的として利用されたいかを伺い、学校教育に寄り添った上演の進め方と致します。また児童・生徒の普段の様子や、体育館に集まった際の先生の指導方法など伺い制作団体、出演団体で共有致します。学校周辺の環境や地域性を伺って、学校へ伺った際に児童・生徒とのコミュニケーションに利用致します。</p> <p>「教科学習への具体的な活用のご提案」  ワークショップや本公演の内容を教科の学習に結びつけていただけるよう、具体的な活用の手引きを作成して先生へお渡しします。</p>

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先

No.2

【公演団体名

沖縄伝統組踊「子の会」

】

本公演演目

よつだけ  
①琉球舞踊「四つ竹」



②ごあいさつ  
沖縄県の紹介  
琉球舞踊「四つ竹」の  
作品紹介



③紅型塗絵の紹介  
おきなわことばクイズ  
地謡の楽器紹介  
沖縄音楽ミニコンサート



まんざいてちうち  
④組踊『万歳敵討』  
代表児童・生徒の  
共演・演舞発表



⑤組踊「万歳敵討」の作品紹介と  
あらすじのお話



⑥組踊「万歳敵討」

⑦カーテンコール  
感想インタビュー  
質問コーナー



別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先 No.3

【公演団体名 沖縄伝統組踊「子の会」】

ワークショップ内容

①ご挨拶と  
本事業についてのお話



②琉球舞踊と組踊について、  
楽器（三線）の紹介と鑑賞



③琉球舞踊「四つ竹」の  
鑑賞と体験



④組踊「万歳敵討」の  
鑑賞と体験



⑥「万歳敵討」共演用、抜粋版の鑑賞とお稽古

